

中施策評価書

作成日 平成30年 8月 11日

中施策事業名	図書館施設維持管理事業	部課名	教育部・図書館
		作成者	濱島 早代江

①めざすまちの姿	13 教育や子どもに関する予算が確保され、教育環境がよい
②大施策	教育や子どもに関する予算を確保し、教育環境を整える
③中施策	学校以外の教育施設・設備を充実する
④中施策事業の対象	図書館施設
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	施設の改修や維持管理が適切に実施され、快適に利用できる環境が整っている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・施設維持管理事業 ・展示室事業 ・施設利用事業 ・館内美化事業

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
入館者数（本館・栄分室・南部公民館図書室）	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	236,000	236,000	237,000	238,000	239,000	239,000
	実績値	232,951	223,394				
単位	人						
	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				29,424千円	22,190千円	
	a 事業費合計			23,515千円	19,267千円	26,606千円
	人 件 費	正規職員	人数	1 人	0.5 人	
			b 金額	5,909千円	2,923千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			5,909千円	2,923千円
② 補助金等 (収入)				112千円	105千円	119千円
③ コスト (①－②)				29,312千円	22,085千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				426 円	321 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	入館者数は1日当たり30人程度減少している。 要因としては、スマホ等の普及により学生の学習室の利用減や、自力での来館が困難な高齢者の増加などが考えられる。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	屋外の照明灯をLEDに更新し、さらに電気使用量の削減を図る。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	トイレ改修計画（洋式化）、机、イスなど老朽化した備品の整備	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名（仮称）	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	館内照明をLEDに更新し、読書環境の改善ができた	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	施設改修の予算を優先したため、備品の整備は予算化できなかった 改修工事等は計画どおり実施している	

中施策評価書

作成日 平成30年 8月 11日

中施策事業名	資料情報管理事業	部課名	教育部・図書館
		作成者	濱島 早代江
①めざすまちの姿	21 市民が豊明の歴史・伝統・文化に誇りを持ち、次世代が継承し創造している		
②大施策	とよあけの歴史・伝統・文化に誇りを持ち、継承・創造できる環境をつくる		
③中施策	市内外の人がとよあけの魅力を楽しめる環境をつくる		
④中施策事業の対象	図書館資料		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	図書館資料の詳細データが整備され、検索が容易にできる状態となっている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・資料総点検事業 ・電算システム管理事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
年間の予約件数（web予約含む）	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	10,900	11,500	11,500	11,500	11,600	11,600
	実績値	11,339	11,429				
単位	件						
	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				12, 553千円	12, 698千円	
	a 事業費合計			9, 598千円	9, 775千円	8, 990千円
	人 件 費	正規職員	人数	0. 5 人	0. 5 人	
			b 金額	2, 955千円	2, 923千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	2. 5 人	2. 5 人	
			金額	2, 482千円	2, 563千円	
		人件費合計			5, 437千円	5, 486千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				12, 553千円	12, 698千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				183 円	185 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	成果指標は、前年度比で上昇しており、目標値をおおむね達成することができた。
-----------------------------	---------------------------------------

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	館内検索用端末の利用方法について問い合わせがあるため、簡単な操作説明を設置する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	利用者より在架についての問い合わせが多いため、HPからの資料検索方法を案内する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名 図書館資料データ整備事業	内容、理由、時期等 HPに資料検索のコツなどを掲載する。
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	書架の整理、資料データ及び利用者データの整理を継続して実施できた 特に利用者データについては、貸出カードの有効期限(5年)の更新に伴い整理できた	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成30年 11月 8日

中施策事業名	図書館資料貸出事業	部課名	教育部・図書館
		作成者	濱島 早代江
①めざすまちの姿	21 市民が豊明の歴史・伝統・文化に誇りを持ち、次世代が継承し創造している		
②大施策	とよあけの歴史・伝統・文化に誇りを持ち、継承・創造できる環境をつくる		
③中施策	新しい文化を醸成する		
④中施策事業の対象	図書館利用者（児童・生徒とその保護者及び関係する地域住民）		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	読書推進によって、子どもの情操教育が充実し、市民も豊明の歴史・伝統・文化に対する関心が高まっている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・広報事業 ・資料収集事業 ・レファレンス事業 ・相互貸借事業 ・利用促進事業 ・行事企画事業 ・学校連携事業 ・ボランティア関連事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
年間貸出点数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	442,000	447,000	448,000	449,000	450,000	450,000
	実績値	446,046	442,152				
単位	点						
新規登録者数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	1,300	1,350	1,400	1,450	1,500	1,500
	実績値	1,230	1,228				
単位	人						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				55, 283千円	51, 147千円	
	a 事業費合計			31, 647千円	30, 689千円	31, 882千円
	人件費	正規職員	人数	4 人	3. 5 人	
			b 金額	23, 636千円	20, 458千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	12 人	12. 3 人	
			金額	11, 914千円	12, 605千円	
		人件費合計			35, 550千円	33, 063千円
② 補助金等 (収入)				1, 080千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				54, 203千円	51, 147千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				789 円	744 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	貸出冊数、新規登録者数ともに減少している。スマホ等の普及による若年層の読書離れが原因と思われる。 目標値には達しなかったが、新規登録者は毎年1,200人を越えており、着実に新たな利用者を確保している。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	貸出冊数を増やすだけでなく、新規利用者を増やすため、おすすめ本等の特別コーナーを継続する。利用者が手に取りやすいテーマと選書を計画し、PRをする。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	図書資料の保存スペース縮小、若年層の利用増を目的に電子書籍の導入を検討する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) 私のイチ押し本	内容、理由、時期等 図書館で借りたお気に入りの本を応募用紙にて募集。対象は図書館利用者。参加賞あり。平成30年10月に「おすすめ本コーナー」で紹介。
今後、休廃止する事業	事業名 読書ゆうびんコンテスト	内容、理由、時期等 市内小学生対象。夏休みの宿題になっており、自主的な参加という本来の目的から外れてしまったため、平成30年度から廃止とした。
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	図書館行事を見直し、行事計画を改善した。 特設コーナーについては、他課と連携した内容を計画できた。 例:「野菜を食べよう」「認知症」(健康長寿課)、「起業について」(産業支援課)、「保育士さんがおすすめする本」(保育課)	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成30年 11月 8日

中施策事業名	郷土資料保存事業	部課名	教育部・図書館
		作成者	濱島 早代江

①めざすまちの姿	21 市民が豊明の歴史・伝統・文化に誇りを持ち、次世代が継承し創造している
②大施策	とよあけの歴史・伝統・文化に誇りを持ち、継承・創造できる環境をつくる
③中施策	歴史・伝統・文化の保護・継承を支援する
④中施策事業の対象	郷土資料等
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	豊明の歴史、伝統、文化に関する資料及び情報が収集されるとともに利用しやすい環境が整備されている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	- 郷土資料収集事業 - 郷土資料整理・保管事業

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
郷土資料の貸出冊数（原則館内利用だが、5日間の特別貸出可能）	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	100	120	140	160	180	190
	実績値	84	182				
	単位 冊						
	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
	単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費(a+b)				3,451千円	3,440千円	
	a 事業費合計			496千円	517千円	563千円
	人 件 費	正規職員	人数	0.5 人	0.5 人	
			b 金額	2,955千円	2,923千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0.5 人	0.5 人	
			金額	496千円	512千円	
		人件費合計			3,451千円	3,435千円
② 補助金等（収入）				0千円	0千円	0千円
③ コスト（①－②）				3,451千円	3,440千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				50 円	50 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	平成29年度の実績は目標を大きく上回った 市制45周年に伴い、郷土の調査・研究のための利用が多かったと思われる
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	利用が少なく目立たない場所にあるため、手に取りやすい書架のレイアウトを検討する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	図書館開館40周年（平成32年度）に向け、郷土資料の充実を図り、書架のレイアウト変更する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名（仮称）	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
（昨年度の評価書を参照） 現年度に実施可能とした内容の実施状況	ナガバノイシモチソウ公開時期に合わせて食虫植物の本、豊明の自然についての本を特別コーナーに設置した 図書館フェア行事「市制45周年記念映像上映会」・「『豊明を撮ろう！』上映会」の会場に豊明市に関する本を展示	
（昨年度の評価書を参照） 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成30年 11月 9日

中施策事業名	視聴覚教育事業	部課名	教育部・図書館
		作成者	濱島 早代江
①めざすまちの姿	21 市民が豊明の歴史・伝統・文化に誇りを持ち、次世代が継承し創造している		
②大施策	とよあけの歴史・伝統・文化に誇りを持ち、継承・創造できる環境をつくる		
③中施策	歴史・伝統・文化の保護・継承を支援する		
④中施策事業の対象	視聴覚ボランティア等及び図書館利用者（児童・生徒とその保護者及び関係する地域住民）		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市の行事や名所などを映像で記録し、展示することによって、豊明の歴史、伝統、文化に関心が高まっている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・郷土映像資料整理・保管事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
視聴覚郷土資料の 作品数の累計	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	38	45	50	55	60	60
	実績値	40	47				
単位	件						
	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				3, 360千円	3, 331千円	
	a 事業費合計			405千円	408千円	520千円
	人 件 費	正 規 職 員	人 数	0. 5 人	0. 5 人	
			b 金 額	2, 955千円	2, 923千円	
		非 常 勤 一 般 職 員 等 (事業費に含む)	人 数	0 人	0 人	
			金 額	0千円	0千円	
		人件費合計			2, 955千円	2, 923千円
② 補助金等（収入）				0千円	0千円	0千円
③ コスト（①－②）				3, 360千円	3, 331千円	
市民一人あたりコスト （③／市の人口（評価対象年度末時点））				49 円	48 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	成果指数は前年度比で上昇しており目標を達成している。 要因としては、毎年、郷土映像資料の募集と上映会を継続することにより、映像資料の制作が浸透したと思われる。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	H32年度の図書館開館40周年記念映像の企画をするため、郷土映像資料収集事業は見送る。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	企画に基づき、ボランティアと協力し映像制作をする	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) 図書館開館40周年記念事業	内容、理由、時期等 H32年度の図書館開館40周年に向けて、記念映像の企画をする(スケジュール、シナリオ等)
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	視聴覚講習会を継続し、郷土映像資料を収集できた 映像上映は行うことができた	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	映像資料をジャンル別に分類し整理したので、市広報への活用については昨年度に引き続き担当課と検討する	